



## 大分学習療法だより 第19号



平成29年度がスタートいたしました。毎年この時期に開催する定期総会と併せて、第19回研究会が去る4月15日(土)宇佐市の和光園で開催されました。

今年度で設立5年目を迎える節目の年、初めての研究会には総勢40名の参加者にお出でいただき充実した内容でスタートできました。

### 《プログラム》

#### 【1】平成29年度定期総会

#### 【2】第19回研究会

1部:事例発表

2部:総評及び最新情報について 学習療法センター 小林統括リーダー

3部:グループ討議

#### 【3】懇親会 和光園デイサービスルームにて

### 第1部 平成29年度 定期総会

#### 1. 議事の内容

- 1)平成28年度の活動報告及び決算報告
- 2)平成29年度活動計画及び予算について
- 3)会則の改定

#### 2. 承認された内容

- 1)平成28年度の活動及び決算報告
- 2)平成29年度の体制(役員及び運営委員)

会長:首藤毅志(グランドホーム古国府 施設長)

副会長:吹田カズ卫(和光園 事務長)、疋田正三(四季の郷デｲｰｼﾞﾝｸﾞ所長)

理事:市川朋克(いずみの園 特養部長)

伊藤恭敬(鳩友園 副園長)

伊藤眞治(学習療法センター 副代表)

相談役:富永健司(いずみの園 理事長) 大塚恭弘(みずほ厚生センター 理事長)

和田敦子(和光園 施設長代理)

- 3)平成28年度の活動計画及び予算

#### 4)会則の改定

会則「第3章 役員及び機構」第10条(役員)の副会長について、現行1名から2名への増員について議案審議され、和光園の吹田事務長に加えて、四季の郷デｲｰｼﾞﾝｸﾞセンターの疋田所長が選任された。

#### 3. その他

議案提起されてはませんが、その他の案件として研究会のNPO法人化について、首藤会長から概要説明があった。会則の設立目的にある「県内の多くの高齢者、障がい者が日常生活で明るく過ごせる地域にしていく」ことを実現できる会にすること、社会からの信頼を得ること(特に行政)、持続性のある会にすることなど、法人化すべき理由についての説明があった。

来年4月設立を予定しているが、本年12月の臨時総会で議案提起し審議決定された後申請することになる。



昨年会場となったセンテナリアンで学習を見学する参加者



## 第2部 第19回研究会 会場:和光園(宇佐市)

研究会の冒頭、首藤会長及び会場となった和光園の代表として、和田敦子様（施設長代理）にあいさつをいただきました。

首藤会長からは、平成29年度定期総会で提起した議案について、すべて承認されたことで、新たな運営体制で活動のスタートが切られたことが報告されました。また審議とは別に、来春を目途に研究会のNPO法人化を検討していることの報告がありました。

続いて、会場となった宇佐市 和光園の和田施設長代理のあいさつは次の内容です。  
「導入前、利用者さんの尊厳を守りながら、できることをうまく見つけ出し、支援できるようなツールはないかと思っていたところに学習療法との出会いがありました。お陰で職員は利用者様と深く関わることができ、改善事例も発表できるような積極性がでてきて、本当によいツールだと改めて思っています。学習療法は、施設を良くするための具体的な方法が秘められたツールです。これから導入を考えられている事業者さんに是非とも取り組んでいただきたいと思っています。」

### 【施設紹介・事例発表（和光園）】



施設の取組みと近況について説明する  
和光園の吹田事務長

第1部の研究会では、通常は施設内の見学が行われるのですが、今回は感染予防の対策で面会制限が実施されていたために、吹田事務長による説明とビデオによる施設紹介が行われました。

吹田事務長からは、学習療法をツールにした取組みが徐々に法人全体にも浸透していき、法人内の事例発表で優秀賞を取られたことや今年2月に行われた九州地区の老健大会での発表が高く評価されたことなどが報告されました。

引き続き行われた事例発表では、2月の老健大会での事例を発表していただきました。

「学習療法でいい施設、いい職員、いいケアを目指して」のテーマで、学習療法の取組みで利用者さんの認知症予防、改善はもとより職員のコミュニケーションや気づき力の向上に効果があったことについて発表されました。

### 【学習療法センターからの情報】

#### 普及部西日本チーム 小林統括リーダー

続いて、学習療法センターの小林統括リーダーから、学習療法を取巻く最新の情報と学習療法を活かすために必要なポイントについてのお話をいただきました。

まず、SIB調査事業の結果について再確認した後、自治体として日本で初めて取り組むことを決めた奈良県天理市の状況報告と事業のシステムについての概要が説明されました。SIB事業の推進について、天理市長の熱い思いも伺いました。



講演するセンターの小林統括リーダー



あいさつする和光園の和田施設長代理

**正しく楽しい学習療法を！**  
効果の保証に必要な学習回数を維持し、スタッフの正しい心構えと支援の手順、しを守り、その方に合ったちょうど教材に楽しいコミュニケーションを実践する

■目標シ  
1、目標を  
(学習  
2、目標を  
3、目標を

◆ **学習療法を活かす！**  
1. 高齢者の笑顔と生きがい、やりがいに自信・意欲・誇りから、自立支援へ  
2. スタッフの意欲や変化成長、チーム力向上に  
3. ご家族やケアマネの理解を得て信頼を作る  
4. 施設のケア(ケアプラン)につなげる  
5. 地域の介護を良くする活動につなげる

◆ **目的・効果・価値を伝える！**  
1. 施設内のスタッフ同士で  
2. ご本人・ご家族に  
3. ケアマネジャー・行政・地域に

上と学習者トを活用し(動を図る)

学習療法を活かす7つのサイクルから

### 第3部 グループ討議

第3部はグループ討議です。今回は、それぞれの事業所で抱えている課題をグループ討議の開始までに抽出していただき、話し合いのテーマにさせていただきました。課題は以下の3つの項目で振り返っていただき、様々な回答がありましたのでご紹介します。

#### 実践課題

1. 学習者(利用者)に対する個別ケア(自立支援)についての課題  
(例:学習拒否があるときと無いときがあり、学習意欲が不安定)
2. 職員間の情報共有や連携、人材育成についての課題  
(例:対応する職員によって、記録の書き方や視点が異なる)
3. 事業所全体の体制や運営についての課題  
(例:決められた日常業務が優先となり、学習療法を正しく実践できていない)

#### 1. 学習者に対する個別ケアについての課題

- ① 2対1でのコミュニケーションの取り方
- ② 知的障害者とのコミュニケーションの取り方
- ③ 1対1が良いと思う利用者があるが、人員体制から回数確保ができない。



#### 2. 職員間の情報共有や連携、人材育成についての課題

- ① 職員それぞれの学習療法に対する温度差の解消
- ② 月次検討会で意見があまり出ない。意見を言う職員が決まっている。
- ③ 月次検討会に全職員が出席できていないので情報の共有ができていない。
- ④ 日報を読み返していないので、新たな情報(改善提案など)が次につながらない。
- ⑤ 視点の違いや声掛けの仕方が職員で異なる。
- ⑥ 記録の内容が毎回同じである



#### 3. 事業所全体の体制や運営についての課題

- ① 学習者の状態変化や増加に伴い、人員体制の調整が困難になり、学習回数の確保も困難となった。
- ② 学習者が多い日は、他の方のケアがおろそかになってしまう。
- ③ 月次検討会の取組み方及び学習がゆっくりできる場所の確保。



## ◎アンケート集計結果

当日のアンケートとして、学習療法導入・実施に関すること、また学習者の改善事例、職員や事業所の質の向上につながった事例についてお聞きしました。

Q-1：

学習療法の導入・実施について該当するものを以下からお選びください(有効回答26)

①認知症の予防・改善に効果があると確信している	-----	22 (84.6%)
②導入について、管理者または上司の理解が十分に得られている	---	19 (73.1%)
③導入について、職員の理解が十分に得られている	-----	10 (38.5%)
④学習は職種を問わず、多くの職員で実施している	-----	10 (38.5%)
⑤ケアに活かす7つのサイクルを実践活用している	-----	4 (15.4%)
⑥学習者の効果が確認された事例がある	-----	12 (46.2%)
⑦スタッフの質の向上が確認された事例がある	-----	12 (46.2%)
⑧事業所の質の向上が確認された事例がある	-----	5 (19.2%)

- ①⇒学習療法の価値観についての質問です。その効果を確信している方が8割以上いた。  
②⇒学習療法について、管理者、上司の理解が得られている事業所が7割以上あった。  
③④⇒学習療法に対する職員の理解や多くの職員で実施する事業所は半数以下であった。  
⑤⇒ケアに活かす7つのサイクル」を実践している事業所は15%程度と少なかった。  
⑥⑦⇒学習者の改善事例、スタッフの質の向上事例は5割近くあった。  
⑧⇒事業所全体の質の向上については、確認しづらかったのか少なかった。

Q-2：⑥⑦⑧の具体的な事例

### ⑥学習者の効果が確認された事例

- 学習療法をやめた方が急にレベルダウンした。認知も進み、ご自分の名前も書けなくなった。改めて学習療法の素晴らしさを感じた。
- 徘徊が減った。利用者に笑顔が増えて落ち着いた。ご家族の名前を思い出し、ご家族が喜び涙された。
- 食欲不振だった利用者が学習のあとだとジュースを飲むようになり体調が良くなった。
- 排泄誘導時の声掛けに拒否があった方が現在ではほぼ拒否なく誘導できるようになった。
- 始めは嫌がっていた利用者が、学習療法を行う時間を待ち遠しく思ってくれた。



### ⑦スタッフの質の向上が確認された事例

- 研究会での発表や司会の役割を果たすことができるようになっていく。
- 施設内の業務改善のリーダーに成長した。
- 今まであまり興味のなかった職員が「この人こんなに喋れるんだ」「こんなことを言うんだ」と利用者の訴えに耳を傾けることができた。
- コミュニケーションから利用者への理解を深め、職員が学習を楽しみにするようになった。
- ご利用者に対する対応が丁寧になった。また変化に気づくのが早くなった。
- スタッフ同士の会話が増えて、目配り、気配り、気づくことができるようになった。



### ⑧事業所の質の向上が確認された事例

- 学習療法に関心をもつご家族が出てきた。
- 接遇マナーの質がアップした。また、早期発見が増え、ご家族の安心につながるようになった。
- 仕事に対して前向きになり、上司の困難な課題にも挑戦していくようになった。



### Q-3：本日の研究会で学んだこと

自己紹介する初めて参加された事業所の方々



- 「学習者も支援者も常に楽で楽しく！」「自信と意欲と誇り」「そして笑顔で自分から」
- どの施設の方も同じような悩みを抱えていることを知り、これから改善していく必要性を改めて感じた。さらに具体的な事例を参考に検討していきたい。
- 学習者と学習スタッフがお互いに楽しめることが必要であり、学習者のできるところを評価して褒めながら行うことが大事だと気付いた。
- いつも目標を決めるのに頭を抱えていましたが、得意復活支援がとても参考になりました。
- 認知症になる前の段階を丁寧に取り組んでいくことの必要性
- 学習者の目標をしっかり意識し、それに向かって支援ができることをうれしく思えた。
- 悩みについて明るく話せて、みんなの意見が聴けてとても楽しいグループワークだった。

### ★懇親会

研修会の締めは、毎回恒例となった懇親会で交流を深めます。場所を1階のダイニングに移して開催された今回の懇親会は、アルコールは抜きでしたが豪華なお弁当と出し物で大変盛り上がりしました。

今年度から副会長に就任された四季の郷デパートビルの正田所長の乾杯の音頭



で懇親会がスタート。まずは新鮮なお刺身と豪華弁当でお腹を満たしながら宴は盛り上がりていきました。

そして研究会では初めての試みとなった出し物です。まず首藤会長のギターと歌、そして和光園のスタッフによる息の合った手話ダンス(写真左)が披露され参加者はさらに盛り上がりて会は無事にお開きとなりました。



### 《学習療法研究会へのお誘い》

「大分学習療法研究会」は、学習療法を導入・実践されている施設の皆さまが集まり、学びあう交流の場です。県内の導入事業所で開催していきますので、まだ参加されたことのない施設の皆さま、これから導入をお考えの事業所様も是非ご参加ください。

研究会の活動はこちら・・・

<http://furugo.net/oita-lts.html>



次回は7月8日(土)13:30から  
日田市のケアマンションひだかで開催します！